



飛島中学校だより

平成31年
2月15日発行
[電話番号]
96-3009

新君、文化面での活躍に拍手！！

受験勉強の合間をぬって、**作文、絵、習字等**の作品を仕上げ、各種のコンクールに応募していた**新君の頑張りが認められ**、以下の通り、**入賞**することができました。**おめでとう！！**

- ☆「酒田の子ども」中学3年生の部 **生活文** **特選**
- ☆「酒田・遊佐地区読書感想画コンクール」 **特選**
- ☆「酒田市小中学校書き初め展」中学3年生の部 **入選**



特に、「酒田の子ども」で**特選**になった作品は、**島民の方々との触れ合い**をもとに、**新君の「ものの見方や考え方」**がとても良く伝わる作品なので、是非、島民に皆さんにも読んでいただきたいと思い、紙面で紹介したいと思います。

酒田市小中学校「書き初め展」入選

本当の勉強法 ～海から学ぶ～ 中学三年 渋谷 新

今、中学三年、まさに受験期真っ只中である。しかし、僕は勉強が大の苦手だ。中学に入学した一年生の頃から「学年プラス一時間以上の勉強が基本！」と言われ、先生や親にどれほど勉強しろと言われたのか底しれない。勉強はしたくはないが、頭が良くなりたいという気持ちは大いにある。虫の良い話であるが、今となっても勉強を進んでしようという気持ちになれない。別に勉強しないでゲームやメディアばかりに触れているわけでもなく、友達とわいわい遊びほうけているわけでもない。今、勉強よりも優先しているのは、釣り、地域の人との交流、そして漁師さんの手伝いだ。特に手伝いは、朝早くから船に乗って行ったり、日が暮れるまでだったり、一日の半分以上を海の上にいる時もあったほどだ。

僕は五才の時に飛島に来て以来、十年もの間漁師さんの姿を見て育ってきた。今では、「おめも一流の漁師さなて来たんねえ。」と言われるようになった。父も漁業権を得て漁に出るため、以前にも増して海に親しむようになったと思う。テスト前にもかかわらず、先生達に見つからないように隠れて海に出た時もあった。そんなこともあり、今、担任の先生からは、

「三ヶ月で良いから我慢しよう！」と言われてしまった。しかし、家から十歩も歩けば海がある環境で、我慢ができるはずがない。そこで色々な考えが頭をよぎった。学校の勉強は、将来やこれからの進路に役立つことは確かだ。



しかし、今自分は、ここでしかできないことと向き合っている。このことも絶対に自分の力になっているはずだ。高校への進学は、中学三年の今は、第一目標になっているが、それと引けをとらないほど、海への愛着心も強い。漁師さんの船に乗るということは、日常的に職場体験をしているようなもので、そこから学び得ることも多い。自分にとっては楽しいことなので、自然と頭に入ってくる。その力を普段の勉強に生かせたら良いと思うが、なかなかそう簡単にはいかない。



「好きこそ物の上手なれ。」ということわざがあるが、まさに僕にとって海はそれなのだと思う。

先日、久しぶりに船に乗せてもらった時にこんな話を聞いた。

「昔は中学生になると、毎日海に連れていかれて、学校なんか行きたくても行けなかった。そして中学を卒業すれば、すぐにイカ釣り船に乗せられ、しばらく海の上だった。」

僕からしたら、それがどれほどうらやましいことかと思ってしまった。また、

「勉強できる時に勉強しておけ。勉強しておくとは色々な道が開ける。」とも言われた。複雑な気持ちでいると、漁師さんは更に話をつづけ、

「ただなあ、今でも忘れられない海の景色がある。波も風もなく穏やかな夜、イカ釣りの仕掛けを海に入れてしばらくすると、海が銀色になった。サンマの群れだった。すごくきれいで、こんな世界があるのかって感動し、そこで俺は漁師になると決心したんだ。」

最後の話を聞いた時、背中がゾクゾクとした。僕の知っている海は、青や透明であり、生涯にその色しか見るのでできない人がほとんどだと思う。だからこそ、銀色の海を見ることに価値があるのではないか。

「一度見てみたい!」と強く思うようになり、海に出る日も増えた。また、漁師さんはこうも言ってくれた。

「新の人生は、まだまだ長い。様々なものを見て学ぶと良い。学校で学ぶことが全てではないし、教科書が全てでもない。自分の手で確かめていくことが大事なことだ。」

この話を聞いて色々なことに挑戦していこうとする勇気がわいて来だし、いつか僕も漁師さんのような考え方や生き方をしていきたいと思った。

地域の方々との交流の中で得たことは、決して教科書には書いていないし、学校で学び知ることでできない事である。

「なんだ、ただ勉強したくないだけだろう。」と思われる人がいるかも知れない。しかし、少なくとも僕の中ではそうではなく、島民の方々と一緒にいる時間は、かけがえのない学びの時間なのである。どう自然に対応していくか、どう人と接していくか、そして何よりも人としてあこがられる存在になるには、どうあるべきか、どう生きるべきかを学ぶことができた。

小さい頃の夢は漁師になることだったが、今は多くの人との関わりの中で学んだことを生かし、違ったステージでも自分の力を試してみたいと考えている。十年間、飛島で学んだことを糧として、支えてくれた多くの方々に恩返しをしていきたい。

